

来週の「売り物」記事はこれ



2015年4月3日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

歌声よ、届け復興の地へ！ 八神純子さん <名曲>封印解除の決意

5日（日）



「みずいろの雨」などの大ヒットで、昭和のポップス界をリードしてきたシンガー・ソングライターの八神純子さん（57）＝写真＝。28歳で結婚し、住まいを米国に移すと、表舞台から姿を消しました。その八神さんが再び歌う決意をしたのは東日本大震災でした。テレビに映し出される「灰色の町」。傷ついた人たちに希望の灯をともしたい——。そんな気持ちで日本に戻り、被災地での復興コンサートは100回を超えます。そうしたなかでも、歌うにうたえない曲があったといいます。「みずいろの雨」がそれです。<あとかたも流されていく>のフレーズに、自身の心はたじろぎました。大震災から4年。いま、八神さんを胸を張って歌います。「励ましたいと思っていた私自身が、被災した人たちに背中を押されていた」。そう振り返る八神さんと、被災地の心の交流をたどり、「歌のちから」のものがたりを紡ぎます。



日曜朝は『S』で始まる——。ストーリーにご期待ください。

菅義偉官房長官が4、5両日、沖縄県を訪問



菅義偉官房長官＝写真＝が4、5両日、沖縄県を訪問します。4日は米軍西普天間住宅地区の返還式典に出席し、5日には沖縄県の翁長雄志知事との会談が予定されています。菅-翁長会談は昨年12月に翁長氏が知事に就任して以来初めてです。

政府と沖縄県は普天間飛行場の名護市辺野古地区への移設問題をめぐって対立しています。双方とも1回の会談だけで事態が進展するとは考えていませんが、今後の対話にはつなげたい考えで、菅、翁長両氏の発言内容が注目されます。政治部記者が菅氏に同行し、那覇支局と協力しながら報道にあたります。

高まる「佳子さまフィーバー」異例ともいえる人気の秘密は？

夕刊2面特集ワイド 7日（火）

先日、国際基督教大の入学式に出席された秋篠宮ご夫妻の次女佳子さま。「美しすぎるプリンセス」と人気は高まる一方で、ツイッターでは「かわいすぎる」と絶賛の嵐です。さらには女性週刊誌などがこぞって特集を組み、「佳子さまフィーバー」とも言える状態になっています。「並のアイドルを上回る本物のアイドル」という声すらありますが、なぜこんなに人気を集めるのでしょうか。その秘密を探ろうと、佳子さまの行く先々に集まる大勢のファンの姿を追いました。

「Tokiko's Kiss」

おんなのしんぶん  6日（月）

ユーエー時代から交流があり、お互いを「お登記」「アッコちゃん」と呼ぶ仲の二人。お話は、昔話から歌への情熱など多岐に渡りました。加藤さんが自身の歌とその時代を振り返る新連載「登記子 いく時代の物語」もお見逃しなく。

衣・キャリアファッションのポイント

くらしナビ面7日（火）

新年度がスタートしました。新たに役職に就いたり、部下を持ったりした人も多いのでは。管理職にふさわしい服装とはどういうものか、パーソナルスタイリストの久野梨沙さんに教えてもらいます。基本的には社外では堅い印象、社内では柔らかい印象を与える服装がよく、色や素材の組み合わせで工夫します。

「ガラスの天井」第2部～女性と仕事～

くらしナビ面8日（水）から

政治と女性を取り上げ、好評を博した1月の連載「ガラスの天井」。第2部は女性と仕事を取り上げます。現政権は「女性が輝く社会」を掲げていますが、働く女性を取り巻く現実、依然として厳しいものがあります。妊娠・育児、転勤、再就職、非正規雇用……。さまざまな角度から、働く女性の今を考えます。

— 親の賠償責任・監督義務 — 9日判決



小学生が校庭で蹴ったサッカーボールが道に転がり、バイクの男性が転倒して負傷した事故で、親は賠償の責任を負うべきなのか。こんな点が争われた裁判の判決が9日午後、最高裁で言い渡されます。親に賠償を命じた1、2審判決が見直される見通しです。民法は、自分の行動に十分責任を持っていない子どもが誰かに損害を与えた時、親が代わりに責任を負うが、監督義務を怠っていなければ免除すると定めます。最高裁は監督義務の範囲などについて判断を示すとみられます。

名人戦が開幕（第1局 8、9日）

社会面9～10日



羽生善治名人＝写真左＝に行方尚史八段＝同右＝が初挑戦する第73期名人戦（毎日新聞社、朝日新聞社主催、大和証券グループ協賛）は8、9の両日、第1局が東京都文京区のホテル椿山荘東京で行われ、開幕します。羽生名人が連覇し歴代単独3位となる名人通算9期を達成するか、A級順位戦で23年ぶりとなった4者プレーオフを勝ち上がった行方八段が初の名人位を獲得するか。注目の対決です。



— 創作の原点 —

朝刊文化面 11日（土）

今年は戦後70年の節目の年にあたります。戦争が表現者の創作にどのような影響を及ぼしてきたのかを語ってもらう「創作の原点」には、映画監督の山田洋次さんが登場します。「男はつらいよ」シリーズで知られる山田監督の、満州（現中国東北部）で過ごした少年時代の思い出や、戦争を体験した人との映画製作など、貴重なエピソードを通して、原点をたどります。